

車稅規則  
明治八年二月二十日  
布告第百二十七號

第一則

- 一 馬車二匹立以上 壹箇年稅金三圓
- 一 同 壹匹立 壹箇年稅金貳圓
- 一 荷積馬車 壹箇年稅金壹圓
- 一 人力車二人乘 壹箇年稅金貳圓
- 一 同 壹人乘 壹箇年稅金壹圓
- 一 牛車 壹箇年稅金貳圓
- 一 荷積大七六八車 壹箇年稅金壹圓
- 一 荷積中小車但大六以下 壹箇年稅金五拾錢



第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事  
但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ニ更ニ檢印  
可申受事

第三則

一新調ノ車ノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納税シ  
破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納税候儀  
ト可相心得事

第四則

一右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長へ取集

ノ其管轄廳へ可相納事十一年第四號布告ニ依リ消滅ニ係ルヲ以テ但書ヲ除ク

第五則

一荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脱稅高ノ  
五倍科料タルヘキ事

附則明治三十一年二月二十四日  
勅令第七號

北海道廳管内ニ限リ第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛  
馬荷積大七六八車荷積中小車ハ當分ノ分税金ヲ免除ス



船稅規則

明治十六年四月十七日  
第十三號布告

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞



フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓

同 風帆船 同 金拾圓

日本形積石五十石以上 百石ニ付同 金貳圓

同 積石五十石未満

浮漁船小廻船

積石ニ  
物ヲスニ

長自船梁  
至總梁三間迄ハ一年金三拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船

長自船梁  
至總梁三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五十石未満ノ船並浮漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船



號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届方免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船ハツテ「船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ



速署ノ上其定繫場所所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徴ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ其脱稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス



海上衝突豫防規則 明治十三年七月  
第三十五號布告

總則

第一條 此規則中蒸氣船ト雖凡帆ニテ走リ蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用フル時ハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

燈火

第二條 各船日没ニリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ラス第三條  
第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條  
ニ記載スル燈火ヲ掲ク可シ決シテ他ノ燈火ヲ用フヘカラス



第三條 蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈火ヲ掲ク可シ

(甲)前檣又ハ其前面ニ於テ船體上ニ丈ヨリ低カラサル所ニ  
ニ亮明ナル白燈一個ヲ掲ク可シ若シ船幅二丈ヲ超ル時ハ  
船體上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲ク可シ○此燈火  
ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鹹盤ノ二十方位ヲ照ス  
可ク製造シ之ヲ左右舷外へ十方位ツ。即チ船ノ正首ヨリ  
各舷正横後ニ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴  
天ノ暗夜ニ少クモ五里(海里ニテ算ス以下之ニ倣ヘ)ノ距  
離ヨリ見ユヘキモノヲ用フ可シ

(乙)右舷ニ綠燈ヲ掲ク可シ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明  
ノ光ヲ發シテ鹹盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正  
首ヨリ右舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フ可キ様ニ裝置  
シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ  
用フ可シ

(丙)左舷ニ紅燈ヲ掲ク可シ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明  
ノ光ヲ發シテ鹹盤ノ十方位ヲ照ス可ク製造シ之ヲ船ノ正  
首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フ可キ様ニ裝置  
シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ  
用フ可シ

(丁)右綠紅ノ舷燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出タル屏



風楡ノ隔板ヲ其燈火ノ内側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘス左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル様ニナス可シ

第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ而舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船ト區別ス可シ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ用ヒテ同所ニ掲ク可シ

第五條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サルトキハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ掲クル白燈ノ位置ニ

蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲ス可シ但此紅燈ハ晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フ可シ又晝間ハ直徑二尺ノ黒球若クハ黒色形象三個ヲ前櫓ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル處ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲ス可シ

海底電信線ノ布置又ハ引揚ニ從事スル船ハ蒸氣船ト帆前船トノ差引ナク夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ノ白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲シ



其燈火ハ上下ノ二個ヲ紅色トナシ中央ヲ白色トナシ其紅  
 燈ハ白燈ト同一ノ距離ヲ照スヘキモノヲ用フ可シ又晝間  
 ハ前櫓ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ直經二尺  
 ヨリ少カラサル形象三個ヲ六尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ  
 縦ニ連掲シ其上下ノ二個ハ紅色球形ヲ用ヒ其中央ノ一個  
 ハ白色縱菱形ヲ用フ可シ  
 本條ノ船全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラスト雖  
 モ運行スレハ必ス之ヲ掲ク可シ  
 本條ノ燈火及形象ヲ掲クル船ハ運用自由ヲ得スシテ他船  
 ノ航路ヲ避クル能ハサルヲ標スルモノト他船ニ於テ心得

可シ

但危難ニ罹リ救助ヲ要スル船ハ第二十七條ノ難船信號  
 ヲ用フル者ト心得可シ 十八年第二十七號布  
 告ヲ以テ全條改正

第六條 帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カル、トノ差別ナク  
 白燈ヲ除クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲ク可  
 シ決シテ白燈ヲ掲ク可カラズ

第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ綠紅ノ二燈ヲ掲ケ  
 置キ難キ時ハ綠燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ  
 標ス可キ様甲板上ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ル  
 カ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナ



ル時間ヲ見定メテ各舷燈ヲ他船ヨリ最モ見ヘ易キ様各船ニ標ス可シ

但此時綠燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈ヲ右舷ヨリ見ヘサル様注意ス可シ

此綠紅ノ燈ヲ置違ヒ無ク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且成規ノ隔板ヲ之ニ備置ク可シ

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船體上ヨリ二丈ヲ超ヘサル處ニ白燈一個ヲ掲ク可シ○此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ亮明ノ光ヲ發シ少クモ周回一里ノ距

離ヨリ見ユル様ニ爲ス可シ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ従事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケス唯檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユ可キ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發ス可シ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ従事セサル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲ケ可シ

第十條 甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ用フル舷燈ヲ掲クルニ及ハス然レモ舷燈ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一



個ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ  
他船ニ近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メ  
テ其燈籠ヲ標ス可シ但此時ニ綠光ハ左船ヨリ見ヘス紅光  
ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意ス可シ

右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタル時ハ亮明  
ナル白燈一個ヲ標ス可シ且便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發シ又  
晝夜ニ拘ハラヌ霧中號角ヲ用フルモ苦シカラヌ同上布告ヲ以  
テ(閃光ヲ)ノ  
下(發スルニ苦シカラヌ)トアルヲ  
(發シ又晝夜云々ノ二十四字ニ改ム

第十一條 他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨ  
リ白燈ヲ標シ又ハ閃光ヲ發ス可シ

霧中信號

第十二條 蒸氣船ハ汽笛ヲ音響ノ妨碍物ナキ所ニ裝置シ且  
輔其他ノ器械ヲ以テ發聲ス可キ霧中號角或ハ尋常ノ霧中  
號角及ヒ號鐘ヲ備フヘク帆前船ハ全様ノ號角及ヒ號鐘ヲ  
備フ可シ但此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘ  
カラス同上布告ヲ以テ(且)ノ下(霧中號角)  
トアルヲ(輔)以下二十二字ニ改ム  
霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ  
左ノ如ク用フ可シ

(甲)蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間  
歇ヲ以テ長聲ヲ一發ス可シ



(乙) 帆前船航行中ハ號角ヲ以テ三分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ右舷開ナレバ一聲ヲ發シ左舷開ナレバ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタル時ハ三聲ヲ連發ス可シ

霧中速力

第十三條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ速力ヲ以テ走ル可シ

航法

第十四條 二艘ノ帆前船互ニ近寄りテ衝突ノ懼アル時ハ一

方ノ船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避ク可シ

(甲) 一杯ニ開カサル船ハ一杯ノ開キタル船ノ航路ヲ避ク可シ

(乙) 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避ク可シ

(丙) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避ク可シ

(丁) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避ク可シ

(戊) 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避ク可シ

第十五條 二艘ノ蒸氣船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢テ



衝突ノ懼アル時ハ兩船共鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過ス可シ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ殆ト眞向ニ行逢テ衝突ノ懼アル時ニ限り應用ス可ク各其鐵路ヲ保チテ必ス替リ行ク時ニ應用ス可カラス

本條ニ應用ス可キ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ殆ト眞向ニ行逢ヒタル時即チ晝間ハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ殆ト一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ一時ニ見ル時ニ限ル可シ

本條ハ晝間他船ノ我鐵路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユ

ル時又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ナクシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ナクシテ綠燈ヲ見ル時又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ル時ハ應用ス可カラス

第十六條 二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ懼アル時ハ我右舷ニ他船ヲ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避ク可シ

第十七條 帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船ヨリ帆前船ノ航路ヲ避ク可シ

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ速力



ヲ緩ニシ又ハ時宜ニ依リ停止シ且後退ス可シ

第十九條 蒸氣船此規則ニ遵テ鐵路ヲ取ル時ハ左ノ汽笛信

號ヲ以テ他船ニ其鐵路ヲ通知スルヲ得可シ

短聲一發 我船ノ鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我路ノ鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船一杯ノ速力ニテ退却ス

此信號ヲ用フルト否ラサルトハ隨意タル可シ但此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號通りニ其鐵路ヲ取ラサルヘカラス

第二十條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サント

スル時ハ以上ノ規則ニ拘ラス總テ他船ノ航路ヲ避ク可シ

第二十一條 總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通行スルニ當リ無難

ニ通行シ得ルトキハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行ス可シ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ

航路ヲ避クル時ハ他船ニ於テ其鐵路ヲ保守ス可シ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危険

ニ心ヲ配リ且危険切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クルニ注意ス可シ



懈怠ノ責

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ヲ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事件ニ於テハ船主、船長、乘組人員、各其責ヲ免カル可カラサルモノトス

別則

第二十五條 此規則ハ各地方官ニ於テ特ニ制定シタル港川其他内海ノ航行規則ノ施行ニ于涉セサルモノトス同上海以テ(各地官府)トアルヲ(各地方官)ト改ム

第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラ

ル、船ニ増掲スル列位燈火及信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ニ于涉セサルモノトス

難船信號

第二十七條 危難ニ罹リ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船ハ左ノ信號ヲ用ヒ同時又ハ別々ニ施行ス可シ

晝間信號

- (一) 凡一分時毎ニ一砲發ヲナスコト
- (二) 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ標スルコト
- (三) 方形旗ノ上又ハ下ニ球若クハ之レニ類似スルモノヲ



掲クル遠隔信號ヲ標スルヲ

夜間信號

- (一) 凡一分時毎ニ一砲發ヲナスコト
  - (二) 船上ノ發焰タール桶油樽等ヲ燃燒スルノ類
  - (三) 各色各種ノ星火ヲ發射スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發  
ツ、數分時毎ニ打揚クルコト
- 罰 則 十四年第三十三號布告追加
- 第二十八條 凡船舶合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

但甲板ナキ漁船及甲板ナキ小船ハ此限ニアラス十八年第二十七號布告ヲ以テ改正

附 則 十八年第二十七號布告ヲ以テ本則追加

西班牙國ノイニステル岬以北ノ歐洲沿海ノ漁船及小船ニノ  
 左ノ規則適用ニ付該地方航行ノ諸船ニ於テ之ヲ心得可シ

(甲) 登簿噸數二十噸以上ノ漁船航行シ及次ノ各項ニ記載  
 シタル燈火ヲ掲タルヲ要セサル時ハ他ノ航行船ト同様  
 ノ燈火ヲ掲ク可シ

(乙) 流網ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船ハ其船ノ最モ見ユ易キ  
 場所ニ於テ二個ノ白燈ヲ掲ク其燈火ノ縱距離ハ六尺以



上十尺以下ヲ隔ツ可シ但此二個ノ白燈ハ下ニ掲クルモノヲ上ニ掲クルモノヨリ前方ニ置キ且晴天ノ暗夜ニ周回諸方三里以上ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フ可シ

(丙)釣糸ヲ垂レ釣魚ニ従事スル船ハ流網ヲ以テ漁獵ニ従事スル船ト同一ノ燈火ヲ掲ク可シ

(丁)漁獵ニ従事スル船其屬具ノ岩礁其他障碍物ニ固著セル爲メ其所ニ駐留スル時ハ碇泊船ト同様ノ燈火及霧中信號ヲ用フ可シ

(戊)漁船及甲板ナキ小船ハ何時ニテモ本條ニ依リテ掲ク可キ燈火ノ外ニ明光ヲ發スルハ苦シカラズ曳網爬網其他

曳網ノ類ヲ用ヒ漁獵ニ従事スル船ニ於テ閃光ヲ發スル時ハ総テ其船ノ後部ニ於テス可シ但曳網ノ類ヲ船尾ニ繫キタル時之ヲ船首ニ於テ發スルハ此限ニ在ラス

(己)漁船及甲板ナキ小船碇泊中ハ日没ヨリ日出迄ノ間少クモ周回諸方一里ノ距離ヨリ見ユ可キ白燈ヲ掲ク可シ

(庚)霧中又ハ降雪中ニハ網ニ繫キタル流網船及曳網其他曳網ノ類ヲ用ヒ漁獵ニ従事スル船及釣糸ヲ垂レ釣魚ニ従事スル船ハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ霧中號角ト號鐘トヲ迭ヒニ鳴ラス可シ

同上布告ヲ以テ本條ヲ追加ス



西洋形船舶検査規則 明治十七年十二月二十二日  
布告第三十號

第一條 西洋形船舶 海軍艦艇ヲ除ク ハ此規則ニ遵ヒ検査ヲ受クヘシ

但登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル風帆船ハ此限ニア  
ラス

第二條 船舶検査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

第三條 検査所々在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其最寄  
検査所ニ願出ヘシ

第四條 検査未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其船籍ア  
ル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘシ

第五條 登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル氣船ノ検査ハ其



船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條 検査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ氣船ニ係ル検査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル検査證書ヲ交付ス

但地方廳ノ検査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

- 一 番號
- 一 船名
- 一 船主氏名

一 定繫場名

一 登録噸數

一 端船其他必要ノ所屬品

一 航行シ得ヘキ場所ノ定限

一 證書有効期限

汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ

一 公稱馬力

一 汽機ノ種類

一 汽罐ノ種類

一 最大汽壓



一 旅客定員

第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認め  
ルトキハ其修理ヲ命ジ或ハ出帆ヲ差止ムヘシ

第九條 検査証書ノ効力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇  
月ニ區別ス

第十條 検査証書ハ船内最見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第十一條 検査証書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由  
ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條 船名船主及ヒ定繫場ヲ變更シタルトキハ農商務  
省又ハ地方廳ニ届出ヘシ

第十三條 船體若クハ汽機汽艙其他要部ノ修理若クハ變更  
ヲナシタルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十四條 船舶航行ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルトキ又ハ除  
籍トナリタルトキハ直ニ検査証書ヲ農商務省又ハ地方廳  
ニ返納スヘシ

第十五條 検査証書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必  
要ト認めル場合ニ於テ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條 船舶ノ検査ヲ受ケスシテ航行シ又ハ無効ノ検査  
証書ヲ使用シ又ハ検査証書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ  
或ハ場所ノ定限ヲ越ヘテ航行シ又ハ検査官吏ノ命ニ違背



シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 検査證書ニ記載セル端船其他必要ノ所属品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

第二十條 第十一條第十二條第四條ヲ犯シタルモノハ壹圓

以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 検査細則及施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム



危害品船積規則

明治六年八月九日  
第貳百九拾貳號布告

危害ヲ生ス可キ物品ヲ漫リニ船積致候テハ他ノ物品ヲ傷害  
シ甚敷ハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件ノ法  
則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事  
一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液並  
腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害ス可キ物品船積致候片ハ  
其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船  
主船長又ハ運漕會社危難請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出  
ス可シ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或  
ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以內ノ罰金ニ處ス可キ事



一尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品ニ可有之ト見受候トキハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之トキハ船主會社等之入費ヲ以テ故之如ク荷造可致然共其荷物中ニ危害品有之トキハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社之倉庫等ニ於テ見出ストキハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄應或ハ裁判所へ可届出事

但安全ノ場所ニ之ヲ移ス之費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一此ヲ危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保チ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ着港之上直チニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄應或ハ裁判所へ可届出事

但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主之損失ヲ辨償スルニ不及事

一船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘトモ官ニ訴へ出サルトキハ金二百圓以内ノ



罰ニ處ス可キ事

度量衡改定規則 明治九年二月  
第十七號布告

第一條 三器改定ニ付各地方ニ三器製作所並ニ賣捌所ヲ設  
ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所  
ニ於テ發賣爲致從前ノ秤座秤座ハ同日ヨリ廢止候事

第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル  
三月十五日ヨリ十二月廿五日迄ニ右改所へ差出シ検査ヲ  
請ク可シ右期日ヲ過キ檢命ナキ器ヲ商業上ニ用フルヲ  
禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察ス可キ事  
但シ改所ニ於テ検査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢ス  
可キ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻ス可シ



第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但シ尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ枱ハ芋烏芋等

ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枱ノ縁鐵弦鐵ヲ打替ヘ斗概

ヲ修覆スル等ハ必ス製作所へ差出ス可ク秤量ノ緒紐ヲ附

替フルハ製造所又ハ賣捌所ニ差出ス可シ其他ノ人自儘ニ

致シ候儀不相成候事

第五條 舊新器其檢印アルヲ賣拂度者ハ必ス賣捌ニ可差出

候事

但シ秤ノ錘皿又ハ枱ノ縁鐵弦鐵等ヲ取離シ古鐵トシテ

賣買スルハ苦シカラス

第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シ

テ處斷ス可キ事

(種類表略之)



牛馬賣買規則

明治五年十一月  
第三百三十號布告

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬  
壹鼻綱ニ付免許鑑札一枚相渡可申事

但シ壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限リ鑑札壹枚ヲ所持スル者  
旅行ノトキハ七匹以內ニ枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限  
ル可シ其餘准之可申事

第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後  
ハ半年分納税シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半  
年分納税可致事(七年第四十五號  
布告ヲ以テ改正)

第三條 免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之



其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札一枚ニ付一ヶ年税金壹圓上納可致事

但シ右税金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限各管廳へ取立租稅寮へ上納可致尤モ新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事(八年第百十五號布告ヲ以テ納期改正)

(但書改正十一年第百四號布告ヲ以テ納期改正)

第五條 免許鑑札燒札燒印並ニ押切判ハ離形ノ通り其管轄所ニテ製造致シ各稼人共へ相渡可申事

但シ鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添へ當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬

一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ル、ニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事

但シ密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代金並ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付諸入費ハ一ヶ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決シテ不相成候事  
但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ



照シ處分可致貸渡候者ハ免許稅ヲ五倍ノ科料可申付事

(七年第三百三十一號布告ヲ以テ但書共追加)

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事

但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金二十錢可相納事(八年第三百六十

六號布告ヲ以テ但書トモ追加ス)

(離形略之)

遺失物取扱規則

明治九年四月十九日第五十六號布告

第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺テ及

ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ル

ニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルコトヲ證明スルニ於テハ

直チニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日以内ニ其主ニ還シ其主分

明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ壹年内其主

ナキトキハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様員數並ニ遺失ノ

日時場所等ヲ可成丈々詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ



但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用  
ヲ償ハシムルヲ得且得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五  
ヨリ少カラヌ二十ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物  
主得者ト其價格ヲ争フトキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價  
ヲ定ム

第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルモノハ直チニ官  
ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止テ其費用ノミヲ償ハシム

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ  
官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸ス

ヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト中

分セシム

明治十四年一月第二號布告ヲ以テ但書トモ金條ヲ改正ス

但盜難ニ係ルモノハ此限ニアラス

第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主  
分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ  
其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ

第八條 凡家畜ノ類他所ニ逃走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱  
スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費  
用ト報勞金ヲ給與スルコト第三條第四條ニ同シ若シ他人  
ノ財産ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス



第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得主ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩除アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第十條 凡遺失物及逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ至ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ以テ論

セヌ並ニ官ニ沒ス

第十三條 凡公私債證書(地券)諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡遺失及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セヌ或ハ物主ノ其主タルヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス



内國船難破及漂流物取扱規則

明治八年四月  
第五十六號布告

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ  
逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ属スル諸費用ノ立方ハ總テ  
左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管廳ヨリ區戸長  
其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲メニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候  
節ハ最寄ノ者見付次第直チニ浦役人ニ報知シ且ツ浦役人  
ヨリ指圖無之ニ速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ  
但シ救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者



ヨリ頼談無之内ハ獲リニ船中ノ物品ヲ積ミ移スヘカラ  
ス

第四條 浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ル片ハ速カニ  
其乗組人及ヒ船體積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ尽スヘシ  
若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘  
等打鳴ラシ人数ヲ呼聚メ且ツ近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出  
サシムヘシ

第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキ片ハ勿論前條ノ如ク多人  
數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ニ付  
ク成丈々失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ

、早速人數ヲ退散セシムヘシ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最モ安全ニシテ  
且ツ便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤モ小屋掛ヲ要シ番人ヲ  
差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲ爲シ諸事懇切  
ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者上陸次第直チニ  
電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知スヘシ  
第八條 難船物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ  
遣ハスヘシ

第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一



第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一

第三 川面ニ漂流スル物品ハ其三十分一

第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但シ其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケ

ナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人数及ヒ救助ノ爲  
メニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ之レニ就テ盡  
カシタル證據顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃  
錢等ヲ割渡スヘカラス

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ汐入水濡

レ等ノ爲メニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役  
人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於  
テ之ヲ入札拂ニ爲ヌテ得ヘシ

但シ本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ケ最寄  
ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ  
之ヲ爲シ且ツ其物品ノ目錄及ヒ買人ノ證書並ニ其附直  
段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂ヒタルトハ其代價金高ノ内ヲ以テ  
左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシム可シ

第一 保安料



第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃

第三 保安物ノ爲メニ取設タル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢

第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費

第五 同前ノ者溺死スルキ其搜索入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少キキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキキハ第十五條ニ照準シテ處置ス可シ

第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船

主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トナス可シ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲ニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ管廳其外等へ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃

第四 救助人溺死シタル時其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スル時治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必要品代料又ハ歸郷旅費等ヲ貸遣シタル時ハ證書取置



第十九條ノ通り精算書中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セ  
シム可シ

第十四條

大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ

船體皆破沈没乗組人ノ死  
去及積荷ノ大損害ヲ生シ

荷主船主ヲ立會決議  
ヲ要スル等ノモノ

救助方ヲ除クノ現場ノ外各船ノ處置ハ其

管應ニ申立テ其節出張官員ノ差圖ヲ受ク可シ尤モ小難船  
ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二  
名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得可シ

第十五條

船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦

方ニ於テ其救助ノ爲ニ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主  
ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費

ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署  
押印シ管應ヘ差出ス可シ

第十六條

危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ

爲メ盡力シテ死傷ニ至ル者アルハ必ス管應ヘ届出ヘシ  
其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給ス可シ

第十七條

総テ浦役人及船長合議ノ上處置シタル時ハ其事

柄ノ詳細ニ記シタル證書二通ヲ作り之レニ連署押印シ其  
一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置クヘシ

第十八條

二名以上ノ浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ス他

村ヨリ出ス可シ



第十九條 難船救助ニ属スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長  
其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第  
十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ル  
可ク速カニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管廳ニ差  
出シ其檢査ヲ受ク可シ

但精算取調ノ節ハ成丈ク船主又ハ荷主ノ立會ヲ要ス可  
シ

第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不  
審ノ靡無之キハ早速下ケ渡ス可シ然ル上浦役人ハ第十五  
條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出

金致サスヘシ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ  
猶豫ス可シ

但シ民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人ヘ下渡ス可シ

第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦證  
文願出ル時ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ  
者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記ア  
ルモノハ之レニ照シ各々符合スル時ハ浦證文ヲ作り連署  
調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管廳ニ届出ヘシ  
但浦證文中左ノ箇條ヲ載ス可シ

第一 難破ニ逢タル場所其時日及風波ノ模様



第二 破損ノ箇所

第三 打荷ノ種類箇數並他ノ積荷ノ種類

第四 船號及ヒ免狀ノ番號並船主船長ノ本貫苗字名乗

組人數

第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之片ハ其本貫苗字名年齢

第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ

精々尽力シテ救助ス可シ且其難破ノ大小ニ拘ハラヌ其旨

ヲ直チニ管廳へ報告ス可シ

第二十三條 前條ノ救助ニ属スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ

士官ヨリ直チニ受取ルヘシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受ク

ヘシ

但シ第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手

當ヲ與フ可シ

第二十四條 貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候

節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳へ申立ノ上其指

揮ヲ受ク可シ

但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所へ郵

便行囊ヲ至急引渡ス可シ



第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラス十錢ヨリ少ナカラサルモノトス

難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置ク可シ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラス人力ノ豫防ス可カラサルニ出ルヲ瞭然明證スル時ハ此限ニアラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ鋸ニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ託シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十九條 以下漂着ノ部○凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知ス可シ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ヘ届出可シ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ摸



標等ヲ精細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記ル  
シ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船改所へ六十日  
間張出ス可シ尤モ漂着物ノ代價二十圓以上ト思量シ或ハ  
二十圓以下タリモ必要ノ品柄ト思量スル時ハ其管廳ヨリ  
三府五港ノ管廳及ヒ稅關へ報告シテ張出チナシ或ハ新聞  
紙ニ載セテ公告スヘシ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處  
置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分ノ一ヲ取揚主ニ與  
へ其現品ハ持主ニ返還スル事

但持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代金ニテ受取ルヲ得  
可シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之レヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一  
半ハ其取揚主ニ與へ一半ハ官ニ收ムル事

但シ三ケ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ收メシ部分  
ハ下戻ス可シ

第三十二條 乗組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區  
別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ十分一ヲ見附主ニ與  
へ其船ハ持主ニ返還スル事



但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分一ヲ

見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル事

但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ

條ト牴觸スルコトナカル可シ

第三十四條 凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ

付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ奥印シタル證

書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却ス可シ

第三十五條 洋中ニ於テ難破イタシ桅檣其他ノ船具ニ取附

キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通リ取調ヘ

相當ノ保護ヲ加ヘ置直ニ管廳ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤

モ本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸遣シ候節ハ第十三條ノ

通り追テ本人ヨリ償却セシム可シ

第三十六條 凡漂着物ヲ見附タル者之ヲ浦役人ニ報知スル

コトナシ其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二

十八條ニ照シテ處分ス可シ

第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クル時ハ此規

則第二十九條以下ニ照準シ其代價十分ノ一二過キサル取

揚料ヲ遺スヘシ  
十年三月第廿九號布  
告ヲ以テ全條改正



第三十八條 前條ノ場合ニオイテ取揚タル材木巨大ニシテ  
領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト  
看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ  
十一年十月第三十二號  
布告ヲ以テ本條追加

明治廿三年四月十一日印刷  
明治廿三年四月十五日出版屆

定價金五拾錢

著作者

江川小一郎

島根縣平民

當時慶島縣備後國尾道町字久  
保二百七十番次壹番邸寄留

印刷者

瀬戸清次郎

大阪市西區駒下通壹丁目四  
十八番屋敷

發行者

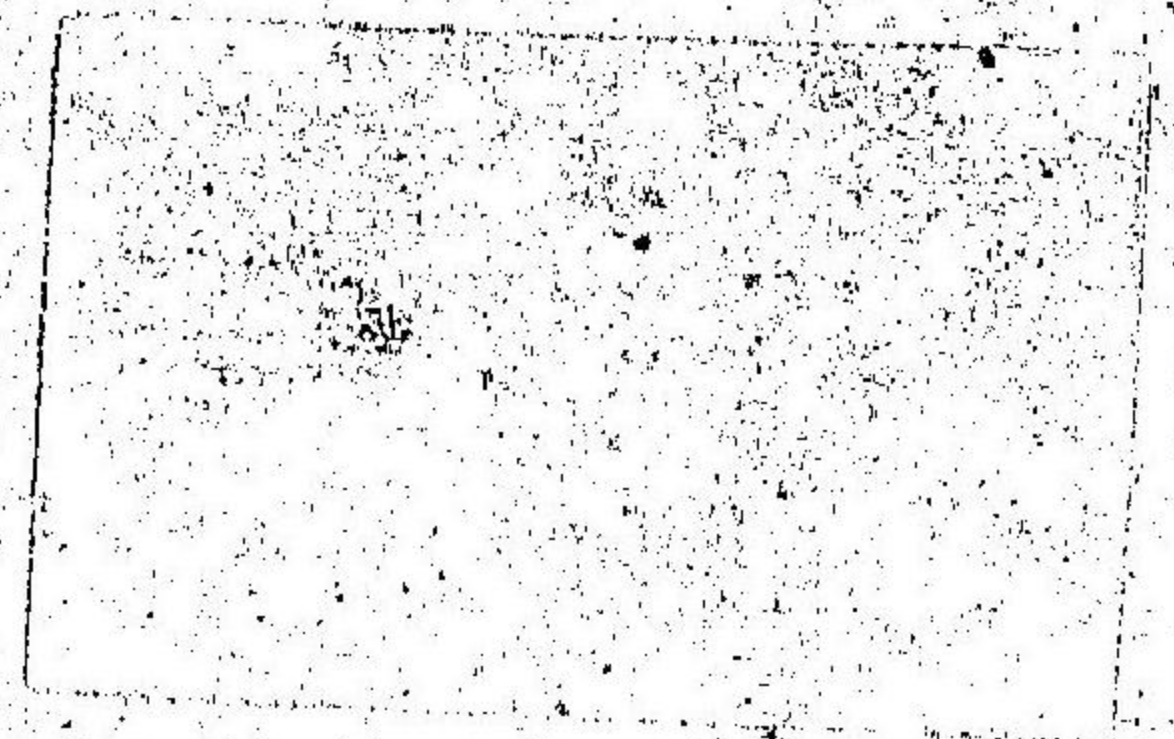
三木半兵衛

慶島縣備後國尾道町土堂三  
百十一番邸

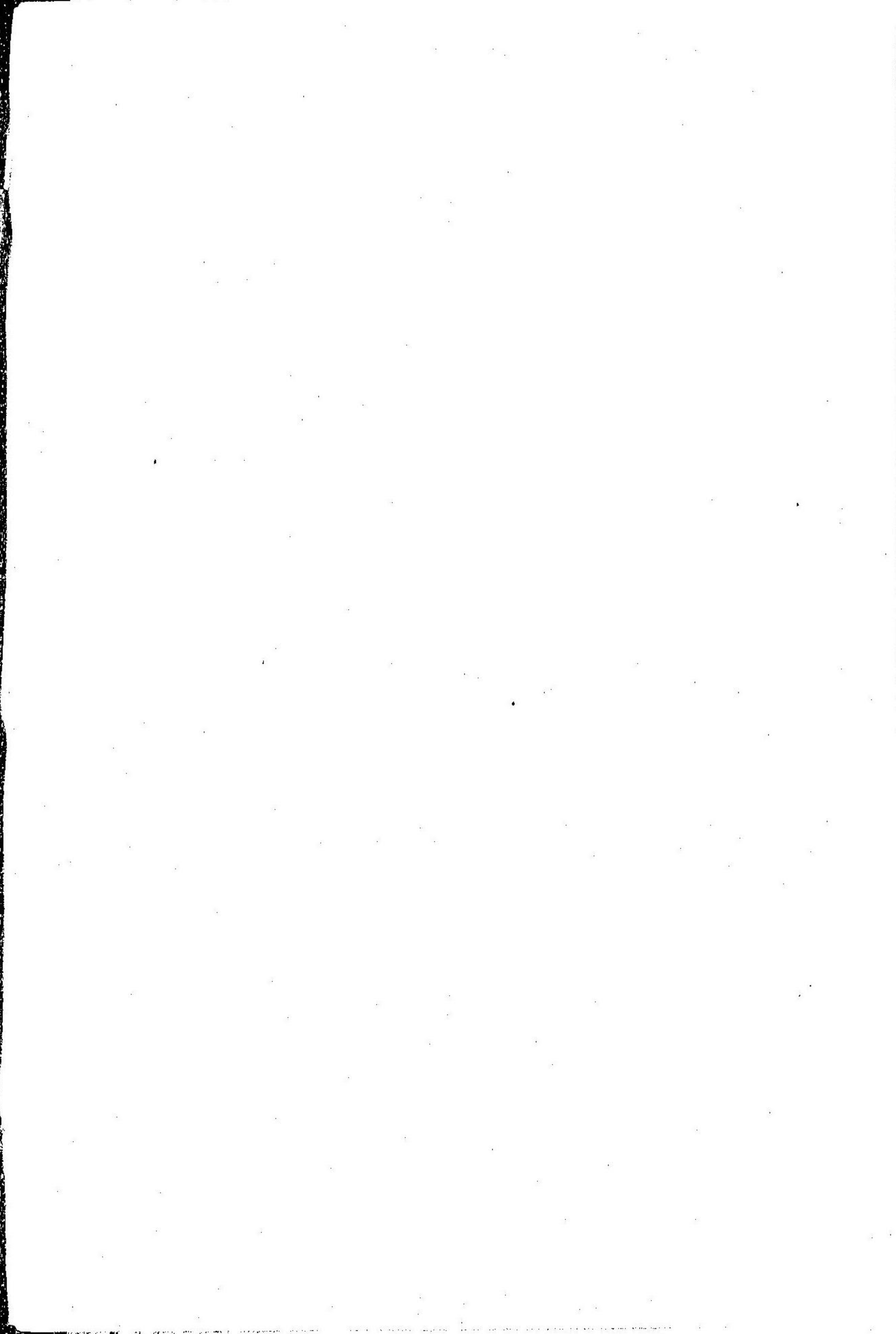
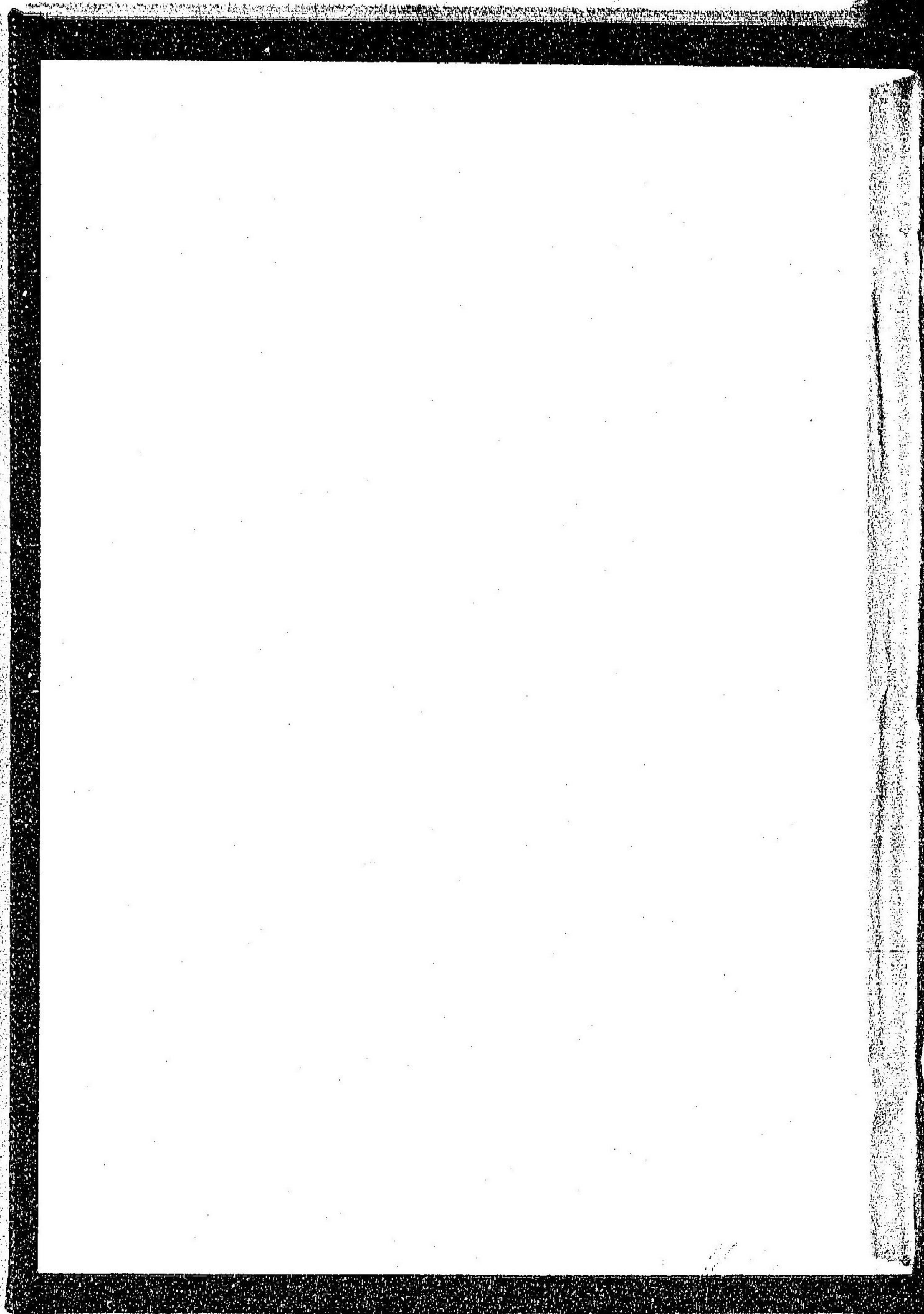




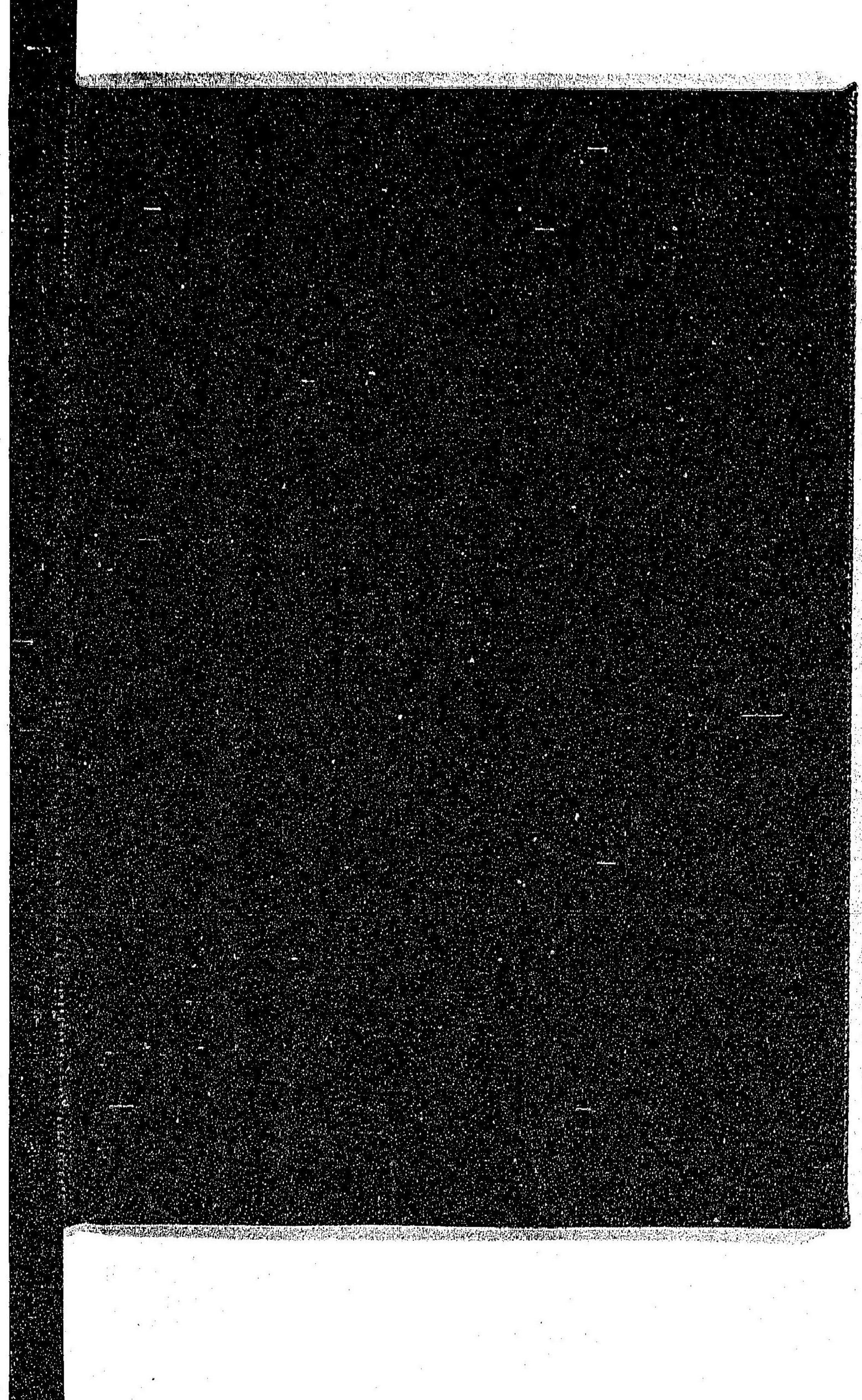
977100













禁電子式複写

035989-000-1

CZ-711-035

現行罰則集

江川 小一郎 / 著

M23

BBP-0604





